

岐阜県のCSF ワクチン免疫付与状況確認検査等に関する情報提供（要約版）

本資料については、令和2年9月4日に公表した「岐阜県のCSF ワクチン免疫付与状況確認検査等に関する情報提供」の要約版ですので、詳細については令和2年9月4日の公表資料をご覧ください。

※ここに示す考察は公表時点以降に集積されるデータにより変わることがあることを理解いただき、参考としてください。

※今回の分析目的は、ワクチン接種日齢の適期を検討するものではありません。

○抗体陽性率の比較

「表1 第1回検査における陽性率」

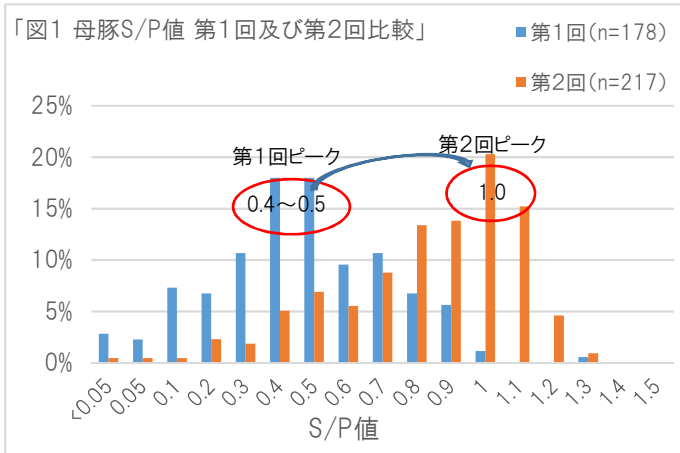
	検体数 (頭)	ELISA 検査結果(頭)			陽性率 (%)
		陽性	偽陽性	陰性	
繁殖豚	178	169	4	5	94.9
子豚	388	384	1	3	99.0

「表2 第2回検査における陽性率」

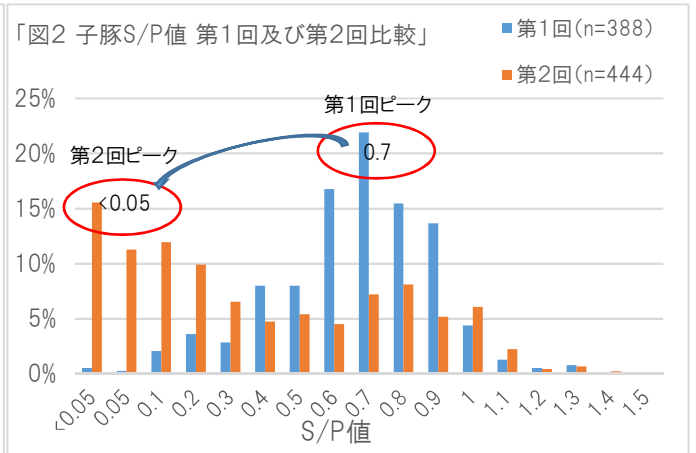
	検体数 (頭)	エライザ検査結果(頭)			陽性率 (%)
		陽性	偽陽性	陰性	
繁殖豚	217	215	1	1	99.1
子豚	444	325	50	69	73.2

第2回で子豚の抗体陽性率が低下

OS/P 値の分布



母豚では S/P 値の分布ピークが
第1回検査と比較して第2回検査で上昇



子豚では
第1回検査と比較して第2回検査で低下

<母豚>

第1回検査は初回接種後3ヶ月未満に採血した豚であり、第2回検査は初回接種から半年後(3ヶ月以上)の豚を検査したもので、S/P値が高くなったと推察される。(抗体価はワクチン接種後3ヶ月程度まで上昇するため)

<子豚>

第2回検査のS/P値の分布のピークが0.05未満となったのは、第2回検査の母豚の抗体価が上昇し、免疫付与の遅延もしくはワクチンブレイクが起きていたと推察できる。

○ワクチン接種から採血までの日数と陽性率の関係

移行抗体が存在していると考えられる第2回検査の子豚について、子豚にワクチン接種してから採血するまでの日数(以下、接種後日数)と陽性率を比較した。

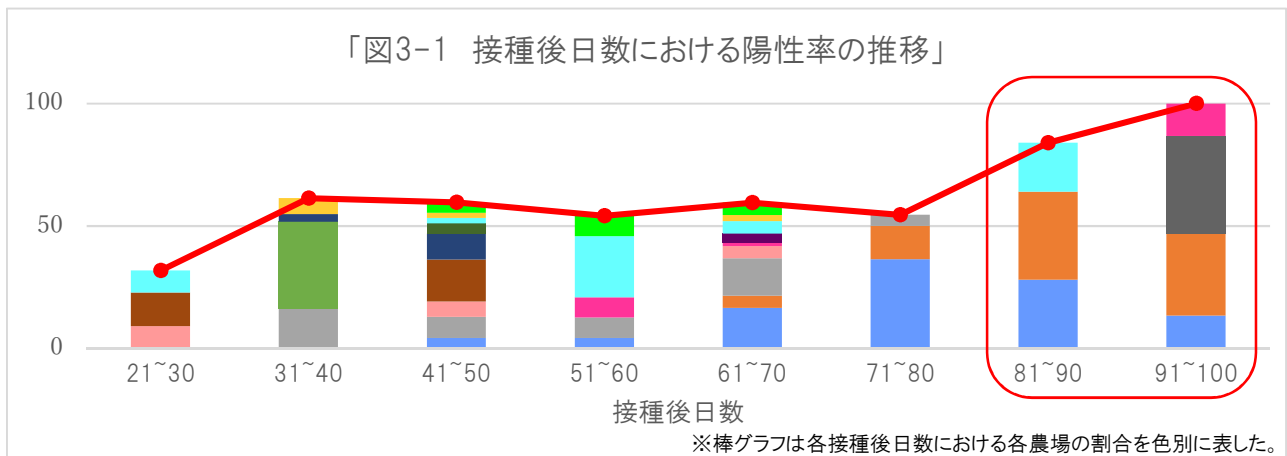
「表1 第2回検査 子豚 接種後日数陽性率」

接種～採血日数	11~20	21~30	31~40	41~50	51~60	61~70	71~80	81~90	91~100
+	0	7	19	28	13	47	12	21	15
±	1	7	9	8	4	14	7	2	0
-	0	8	3	11	7	18	3	2	0
検体数	1	22	31	47	24	79	22	25	15
陽性率	0%	32%	61%	60%	54%	59%	55%	84%	100%
疑陽性率	100%	32%	29%	17%	17%	18%	32%	8%	0%
陰性率	0%	36%	10%	23%	29%	23%	14%	8%	0%
ワクチン接種平均日齢	30	37	32	37	34	36	34	36	39

検体数： 266

接種後 30～80 日で約 60%

接種後 81～90 日で 84%
91～100 日で 100%



接種後日数 81 日以上で陽性率を判定すると 80%以上

91 日以上で陽性率 100%



第2回検査の子豚で陽性率が低下した原因として、

ワクチン接種後移行抗体の影響で免疫付与の遅延が起きたと考えられるが、
接種から採血までの日数が十分であれば、免疫付与されている可能性が高い

○連絡先等について

ご不明な点、ご助言等がありましたら、以下の連絡先にご連絡ください。

また、他県でのデータについて、情報提供いただける場合もぜひご連絡ください。

中央家畜保健衛生所 病性鑑定第一係			
病性鑑定監	田中	担当	桑田・(加藤)
TEL:058-201-0530 FAX:058-201-0531			